

新 アジアの風

県立大地域経済研究所報告

韓国・蔚山市で8月下旬に開かれた第16回北陸(日本)・韓国経済交流会議に参加した。両国から企業や経済団体、自治体などの関係者50〜60人ずつが集まり、両地域間の経済・産業交流について意見を交わした。会議を通し、韓国企業の技術水準の向上ぶりを知り、今後日本企業との提携が広がる可能性を感じた。会議は2000年から毎

松尾 修二准教授

年、北陸経済連合会と北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸AJEC)、韓日経済協会などが、北陸地方と韓国で交互に開催している。日本側は福井、石川、富山の3県、韓国側は蔚山市、大邱市、江原道、慶尚北道という東部に位置する四つの自治体がメンバーとなっている。席上、医療機器関連産業の集積地である江原道の原州市の産業支援機関から、日韓企業の協力事例が発表された。福島県の企業と日本の大学が共同開発した骨密度測定器について、原州の企業が自社技術を用いて全自動化に成功し、製品の改善や新機能の追加に向けて日韓共同で研究開発を行っているという。また鳥取県の消毒液噴霧器メーカーは、より安価に噴霧器ノズルを生産するため、原州の企業と協議を進めてい

技術向上する韓国企業

る。ただ、技術面ではまだ日本に及ばないところがある。特に部品や素材、機械で高度な技術を要するものは主に日本から輸入し、それらを使って製品をつくり、国内外に売っている。そのため、日韓の貿易収支は常に日本の大幅黒

字だ。しかし、製造技術の水準が上がっている分野もある。例えば、自動車部品は日本企業側の購入が増え、貿易収支は2013年から韓国の黒字になっている。先述の通り、医療機器関連でも日本企業の要求を満たす韓国企業があることがうかがえる。

部品調達や技術提携、製造委託などの相手を海外から探す場合、韓国企業は候補のひとつとして検討できる状況になったといえるのではないだろうか。実際、福井県内のある部品メーカーからも先ごろ「韓国企業から部品調達を始めた。意外に品質がよい」との話聞いた。

北陸にも以前のこの会議をきっかけに、原州との交流を始めている企業があり、今回の参加者の一部は会議に先立ち原州を訪問した。今後、北陸と韓国のビジネス上の新たなつながりが生まれることを期待したい。

提携、調達 膨らむ期待



日韓の企業や経済団体、自治体などが参加した北陸(日本)・韓国経済交流会議の全体会議—8月、韓国・蔚山市